

内閣府 2/8 シンポ

## 国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画事業 報告

一般社団法人国際女性教育振興会代表理事 鍵山祐子

### 「開催趣旨・目的」

日本のワーク・ライフ・バランスは大企業における働かせる側から捉えた施策が多く取り上げられてきた。一方、中小企業の WLB の取組は、特にトップである社長の一存で行われることが多く、柔軟性に富んだ社内融和型の取組が功を奏している等特徴がある。女性の感性が光る例も多く、地域密着型の労働と生活の質の向上に貢献し始めている。

今回のシンポジウムは、「日本の WLB」についての基本的な考えを学び、働くことは人間の基本的権利であること、個人がそれぞれ自律的ライフスタイルを確立すること、それら個人の多様な価値観を受容する意識が日本社会に醸成されることを目的としている。少子高齢化の日本では、これからの介護問題に対処するための最重要課題である。

そこで、中小企業 4 社に焦点を当て、そこでどのような WLB を実施しているか、これからの展望はどうかを学ぶとともに、当会が 43 年間継続してきた「男女共同参画学習アドバイザー海外研修事業」の平成 24 年視察国「フランス共和国」における「中小企業の WLB」と「オランダ政権下で復活した「女性の権利省」における「女性の労働と子育てに関する研修」から得られた、日本の WLB と男女共同参画の進展に不可欠な視点を提示した。

当会は世界の潮流を見据える研修を重ね、日本の男女共同参画社会推進に寄与し、日本の未来のために働く女性の育成を進めている。

### 「シンポジウム等の名称・テーマ」

中小企業の WLB に関するシンポジウム

～海外との比較を考えた上での日本の WLB～

「日時」平成 25 年 2 月 9 日（土）13:00～16:00

「場所」女性就業支援センター 第一セミナー室（東京都港区芝 5-35-3）

「参加者数」55 名

### 「プログラム」

基調講演「ワーク・ライフ・バランスと働き方改革」

講演：武石恵美子（法政大学キャリアデザイン学部教授）

パネルディスカッション「各企業における WLB の実践例と海外の取組」

パネリスト：高橋紀美子（（株）秀電社 代表取締役社長）

{ 補聴器販売、経営管理などにおける WLB }

玉城 恵理（港シビル株式会社 取締役）

{ 東京 WLB 認定企業 建設業第 1 号の実際 }

横澤 昌典（向洋電気土木株式会社 総務部課長）

{ 大手商社から転職し、介護と育児を同時進行しながら働くテレワーク実践例 }

山崎 捷子 ((株)ホテルニューパレス会長)

{ ホテル経営と町おこしに働く男女平等参画社会貢献例 }

富安 兆子 (高齢社会をよくする北九州女性の会代表)

{ H24 海外研修フランス班の女性の地位や WLB の研修から }

コーディネーター：武石恵美子

## 質疑応答

### 「参加者からの主な意見」

- ・これからの課題が「介護問題」と気づいた。
- ・WLB は「一生をどう生きるか」の問題と理解した。
- ・「職業生活」と「プライベートな生活」の両立が人間らしい生き方と理解した。
- ・国際比較に基づいた日本の課題や改良のポイントが分かった。
- ・フランスと日本の「働き方、産休取得方法」などとその背景の違いを知った。
- ・40代から後の人生を考える示唆を得た。
- ・女性自身の自覚の問題であると認識した。
- ・パネリストの WLB 実行力に感動。自分の過剰業務のやり方を反省した。
- ・各企業の事例から 中小企業の良さが分かった。
- ・WLB 先進国フランスでも 男女平等ではないと知った。
- ・多様なパネリストの登壇で、多方面にわたり有意義だった。
- ・実践力の大切さを教えられた。高齢者看護家族支援のボランティアを実行する決断ができた。
- ・意識改革の参考になった。
- ・自治体で区民・区内中小企業の WLB を推進するためのヒントが得られた。  
この研修を、区内企業関係者に聞かせたい。経営者の理解を得るのは大変である。

### 「シンポジウム等を通して得た成果」

- ・WLB が働かせる側の問題だけでなく、働く側の生活の質の問題であることの周知が得られた。
- ・男女共同参画社会形成には、制度設計の問題と並行して、働く意義や生活重視等の市民の意識改革が重要である。日本社会の変革には、自分の立つ位置を客観的にみる視点を養うことが大切であることを伝えられた。

### 「今後の課題」

- ・進行時間厳守を徹底させること。
- ・参加者が少なかった。広報の工夫が必要。
- ・地方開催を検討すること。個人生活の充実は地方ではまだ難しいと思われるが・・・。
- ・参加者名簿から得られるネットワークを構築する。
- ・問題提起を絞りきれず 5 名のパネリストになった。もっと話しあいの時間が必要だったと痛感した。

以上